

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多様な人々が集う定時制の課程で、勉強がわかる喜び・人に認められ人と理解し合える喜び・夢や志を抱く喜びを伝え、生徒たちに生き生きとした生活を保障する学校をめざす。

1. 生徒が自分の未来を創造できる学校
2. 生徒一人一人が大切にされる安全で安心な学校
3. 地域・家庭と連携し、協力して生徒を育てる学校

2 中期的目標

1 勉強がわかる喜びを伝える

(1) 授業内容が「分かること」の楽しさを体験することで、「学ぶこと」に意欲をもつ生徒を育てる。

ア 生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに取り組み、学力の定着及び出席者の増加を図る。

- ① 生徒の学力に応じたわかりやすい教材を作成し授業を行う。
- ② ICTや視覚教材を用いた授業および参加体験型の授業を導入し、生徒の学習意欲を高める。
- ③ 授業見学、研究授業等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。

※学校教育自己診断で「学校の授業の説明はわかりやすい」の肯定率（H29年度は78%）を2020年度には85%とする。

イ 授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努める。

※学校教育自己診断の「授業中は落ち着いて学習できる」の肯定率（H29年度は64%）を2020年度には75%にする。

ウ ア、イを実践した結果として、授業に出席する生徒を増やし、中退防止につなげる。

(2) 授業において、図書室の利用を促進する。

2 人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える

(1) 命の大切さ・人権意識・善悪の判断など、人間としての基本的な倫理観や規範意識を育てる。

ア 生徒指導時のみならず、教科の学習およびHR・総合的な学習の時間、行事等も含めた教育活動全体を通して指導する。

※生徒向け学校教育自己診断における「命、社会のルール」の肯定率（H29年度79%）を2020年度には85%にする。

(2) 様々な教育活動で人と関わる体験を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。

ア 挨拶ができる生徒を育てる。

イ 生徒会行事、遠足、修学旅行等に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに行事に参加できる生徒を育てる。

ウ 各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。

エ ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。

※学校行事等で来校する学校外部の人の数を、前年度より増やす。

(3) 生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。

※保護者向け学校教育自己診断における「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率が2020年度にかけて毎年85%を下回らないようにする。（H29年度86%）

(4) 「様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業」を活用し、フォローアップコーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整え、H31年度までに、文部科学省が公表する平成26年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率の11.1%以下を目標とする。

※中退率 H26年度 20.6% → H31年度末 11.1%にする。

3 夢や志を抱く喜びを伝える

(1) 生徒が自己の将来について考え、自らの生き方を選択できるように進路指導の充実を図る。

ア 進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。

イ 進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。

ウ 就業体験をする生徒を増やす。

※卒業生徒の進路決定率（H29年度1月31日現在59%）について2020年度は60%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の間（No. 15, 16）の平均肯定率（H29年度80%）を2020年度は85%にする。

4 組織の活性化と人材育成

(1) 校内組織の活性化

校務検討委員会を中心に学校改革を推進する。

(2) 職務の効率化の取組み

※年間時間外勤務 → 360h以内

(3) 首席を中心に、経験年数の少ない教員の育成に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析（平成31年12月実施分）	学校運営協議会からの意見
<p>（肯定率：29年度→30年度）</p> <p>生徒用</p> <p>① 勉強がわかる喜びを伝えることについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校の授業は、プリント、スライド、映像等の補助教材も使うなどの工夫をしている」肯定率 83%→81% 教員の大半は ICT を活用しスライドやプリントで授業を行っている。昨年度からの授業内容に新たな工夫が見られないのではないかと。今後、新たな工夫やアイデアが必要である。 「学校の授業の内容に、ついていける」肯定率 76%→75% 「学校の授業の説明は、わかりやすい」肯定率 78%→77% 全教員でわかりやすい授業実践に取り組んでいる結果が、上記のような高い数値で維持できている。 「学校の授業中は、落ち着いて学習できる」肯定率 64%→73% 授業中の携帯電話の取り上げ指導を徹底したり、業間遅刻の指導を強化しているが、生徒は授業時間を大切にする、学習意欲を持つことなどがまだ定着しておらず、私語の多い授業がある。 <p>② 人に認められ人と理解しあえる喜びを伝えることについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「体育祭、文化祭などの学校行事はみんなが楽しく行っている」肯定率 77%→68% 友人・地域、同窓会の方々とコミュニケーションの図れる場であり、自分が「学びのチャンスの場」であることを理解していない生徒がいる結果である。今後も集会等を通じて生徒に理解させる必要がある 「学校生活についての先生の指導については理解できる」肯定率 81%→78% 「担任の先生以外にも職員室、保健室等で気軽に相談することができる先生がいる」肯定率 62%→77% 全教職員で生徒に寄り添う指導、生徒に対し傾聴の姿勢で臨むことに取り組んでいる結果としての数字である。指導を継続する。 「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」肯定率 79%→83% 担任による人権 HR や外部講師による講演の結果、高い数字が出ている。 「学校の部活動は必要だと思う」肯定率 70%→74% 部活動加入率は 32%→42%に伸びた。今後も生徒に対する働きかけは続けていく。 「自分は、あいさつをするようになった」肯定率 68%→85% 全教員が積極的に取り組んでいる結果として、17%も上がった。しかし、この数字は学校内の教員に対する「あいさつ」であり、保護者や外部の方々への「あいさつ」はまだできていないのが現状である。 <p>③ 夢や志を抱く喜びを伝えることについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ホームルームなどで、自分の将来について考える機会がある」肯定率 79%→79% 「学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる」肯定率 80%→81% 進路指導部や学年団が計画的に指導を行った結果である。また、新たに卒業生による講演を実施するなど、進路への感心が高くなった結果が高い数字に結びついている。 <p>保護者用</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校に行くのは楽しいようだ」肯定率 86%→69% 「学校の授業の内容はわかりやすいようだ」肯定率 91%→75% 「学校の授業中は、落ち着いて学習できるようだ」肯定率 77%→59% 「担任その他の教員に相談しやすい」肯定率 91%→82% 「学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている」肯定率 83%→89% 「学校の生徒指導の方針は理解できる」肯定率 94%→80% 「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」肯定率 86%→77% 「本校に通学することで日常生活により影響を与えているようだ」肯定率 91%→80% 「子どもは、以前と比べるとあいさつをするようになったと思う」肯定率 89%→67% <p>昨年度と比較して肯定率が全て下がっている。生徒の結果は上がっていても保護者の結果が下がってしまっている。教員は日ごろから保護者の方々に対してきめ細かい連絡をし、密な連携を図っている。今後、新たに校内の取組み・指導を周知する必要がある。</p>	<p>第1回（6/28） H30年度学校経営計画について</p> <p>① 「勉強がわかる喜びを伝えること」についての提言</p> <p>授業参観について</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の参加率が非常に低い。先生方の授業をもっと多くの保護者にも観てもらい、先生方が頑張っていることをわかってもらった方がよい。 授業参観日に都合が悪く参加できなかった保護者のために、他の日に授業見学の機会を増やしてほしい。 <p>スマートフォンを使った授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> スマートフォンは今の時代誰もが持っているアイテムである。 色々なアプリケーションを使って学習したり、情報を取り入れるなど、授業に活用できる場面はたくさんある。 スマートフォンを持っていない生徒への配慮も必要である。 授業規律（携帯電話使用禁止）との調整も考慮する。 <p>何もないところで何ができるのかが重要である</p> <ul style="list-style-type: none"> スマートフォンやアプリケーションがなくてもやれることはたくさんあり、そちらの方が大事である。 <p>② 「人に認められ人と理解しあえる喜びを伝えること」についての提言</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の顔を見て伝えたり、タイピングできなくてもまずは書くことができるようになることが先決である。 <p>③ 「夢や志を抱く喜びを伝えること」についての提言</p> <p>④ 在学中の就労体験について</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉使い、人間関係、社会人としての規律など職場で教えられることは大きい。 非正規雇用はずっと非正規となる可能性が大きい。アルバイト期間中に高評価を得ることができれば、正規雇用につながることもある。 <p>⑤ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者への学校便りの発行について、家庭に発送してもらいよかった。学校のことを知る機会になった。 <p>第2回（11/29）</p> <p>① 3つの授業を見学した後の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、黒板に投影された青い文字は非常に見やすかった。 教材の「羅生門」は、あの時代を理解していない今の生徒たちには難しいと思われる。もっと新しい教材にした方が生徒が興味をもつのではないかと。生徒が感情移入しやすい教材がいいのではないかと。 ⇒1年生の国語の定番教材であり変更は難しい。 先生がゆっくり、はっきり話し、ポイントがわかりやすいように説明されていたのが印象的だった。生徒も落ち着いて受けていると思った。 生徒が楽しそうに授業を受けていてよかった。 <p>② 第1回授業アンケート結果についての提言</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒のニーズと学校が提供するものがマッチングすれば、出席率や授業態度もよくなり、全ての授業アンケートの内容にも反映されてくるのではないかと。 <p>③ 分掌・各学年の取組みの進捗状況についての提言</p> <ul style="list-style-type: none"> 全般において、最近の子供は相手の気持ちがわからない人が多い。大人も子どももインターネット上で自分の興味が合う人とだけ繋がる傾向にある。自分の考えと違う人を攻撃することもある。自分と意見が反対の人と関わることも大事であると思う。 活字離れしているので短時間でもよいので本を読む習慣を身につけてほしい。 あいさつ運動は今後も継続し、あいさつがきちんとできる生徒が増えることを期待している。 <p>第3回（2/26）</p> <p>① 平成30年度学校教育自己診断と検討結果について</p> <p>② 第2回授業アンケート結果についての提言</p> <p>③ 平成30年度学校経営計画及び自己評価についての提言</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断、授業アンケート等は、少数の保護者の意見が反映されている。保護者が学区にいかに関わるかが大事である。あいさつ等も学校だけに任せてはいけない。

府立寝屋川高等学校 定時制の課程

- ・保護者と子供のトラブルについて、学校・警察・地域の関係機関と連携することが重要であり、学校はよくできている。また、モンスターペアレントを作らないようにしてほしい。
 - ・中学時代に課題を持って入学してきた生徒に対して、個別に対応がしっかりできており、課題を解決できた生徒が多いように思う。
 - ・就職する生徒が非常に多いため、進路ガイダンスが大事である。また、アルバイトの先の紹介を学校がしてくれているのが保護者としては非常に助かっている。
 - ・3年間・4年間の卒業に向けて、生徒の皆さんが社会で生きていくための最低限のこと学んで卒業してほしい。例えば、税金や年金等のこと。
 - ・働き方改革において、先生の仕事が多様化しすぎているため多忙すぎる。先生方の体が心配である。
- ④ 平成31年度学校経営計画及び自己評価についての提言
- ・全体的に目標数値が上昇するように頑張ってもらいたい。
 - ・行事予定で「授業参観日」という名称にすると、子供に来てほしくないといわれたりするるので名称を変えてもらいたい。
- ⑤ 各種委員会からについての提言
- 1、人権推進委員会 2、教育相談委員会 3、中途退学防止
- ・人権教育は、生きていくうえでの根幹である。しっかり計画立てて実施できている。
 - ・来年度に向けても引き続きしっかり取り組んでほしい。
 - ・中途退学者が少しずつ減っている。教育相談委員会をはじめ、各先生方の日々の生徒との関わりが大きい。

本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 勉強がわかる喜びを伝える	<p>(1)「分かること」の楽しさを体験できる授業づくり</p> <p>ア 生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに取り組み、学力の定着及び出席者の増加を図る</p> <p>イ 授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努める。</p> <p>ウ ア、イを実践した結果として、生徒の授業への出席率を増やし、中退防止につなげる。</p> <p>(2) 授業において、図書室の利用を促進する。</p>	<p>ア 生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに向け以下の点に取り組む。</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の目的や大切なポイントを説明する 授業ではわかりやすい説明をする。 授業中に生徒の知識・技能の定着をはかるための時間を取る。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力に応じた教材の作成や補助教材（ICTや視聴覚教材）の使用等により工夫して授業を行う。 教材は共有し、教材作成の負担軽減を図る。 授業の中で生徒に考えさせる時間を取る 授業の中で生徒にコミュニケーション能力が身につく仕掛けづくりをし、生徒とコミュニケーションを取る。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業見学、研究授業、研修等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業規律を確立するために、教職員が一丸となって生徒に注意をする。 授業中の携帯電話指導を継続する。 <p>(2) 授業において図書室利用することで、生徒の利用を促す取り組みをする。</p>	<p>ア</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断で「学校の授業の説明はわかりやすい」の肯定率を2%上げる (H29, 78%) 授業アンケート「先生はわかりやすく説明してくれる」の学校平均を0.05上げる (H29, 3.36) 「授業内容に興味関心を持つことができた」の学校平均を0.05上げる (H29, 3.10) 「授業を受けて知識や技能が身に付いた」の学校平均を0.05上げる (H29, 3.13) <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断で「学校の授業は、プリント、スライド、映像等の補助教材を使うなどの工夫をしている」の肯定率を2%上げる (H29, 83%) 授業アンケート「先生は様々な教材を工夫して授業を行っている」の学校平均を0.05上げる (H29, 3.17) 「先生は授業中生徒とコミュニケーションを取っている」の学校平均を0.05上げる (H29, 3.33) <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> 年2回以上研究授業や授業研修を行う <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「先生は授業中してはいけないことをしている生徒に対し注意をしている」の学校平均を0.05上げる (H29, 3.33) 授業アンケート「私は授業中、携帯・居眠り・私語をしていない」の学校平均0.05上げる (H29, 3.23) 学校教育自己診断で「授業中は落ち着いて学習できる」の肯定率を3%上げる (H29, 64%) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> H29年度中退率(12.8%)より1.7%下げる。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書室利用人数がH29年4～2月合計の706人を下回らない。 毎月の生徒の図書貸し出し数の増加(貸し出し数調査は今年度から開始) 	<p>ア</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断で「学校の授業の説明はわかりやすい」の肯定率は77%で1%下がった(△) 授業アンケート「先生はわかりやすく説明してくれる」の学校平均が0.09上がった(○) 「授業内容に興味関心を持つことができた」の学校平均が0.06上がった(○) 「授業を受けて知識や技能が身に付いた」の学校平均が0.07上がった(○) <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断で「学校の授業は、プリント、スライド、映像等の補助教材を使うなどの工夫をしている」の肯定率は81%で2%下がった(△) 授業アンケート「先生は様々な教材を工夫して授業を行っている」の学校平均が0.18上がった(○) 「先生は授業中生徒とコミュニケーションを取っている」の学校平均が0.13上がった(○) <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> 2回の授業見学週間、1回の授業研修を実施(○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「先生は授業中してはいけないことをしている生徒に対し注意をしている」の学校平均が0.08上がった(○) 授業アンケート「私は授業中、携帯・居眠り・私語をしていない」の学校平均が0.12上がった(○) 学校教育自己診断で「授業中は落ち着いて学習できる」の肯定率は73%で9%上がった(○) 生徒の授業アンケートにおいては、すべての項目において、目標とした数値は達成できた。次年度においても引き続き取り組む。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月末現在の中退率は10, 5%(○) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書室利用者数1,111人(○) 今年度は授業において図書室の利用をしたが、次年度は生徒が自ら本を借りて読むことについても考えたい。

府立寝屋川高等学校 定時制の課程

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 人に認められ、人と理解しあえる喜びを伝える</p>	<p>(1) 基本的な倫理観や規範意識を育てる。 ア 教科の学習およびHR・総合的な学習の時間等も含めた教育活動全体を通じた指導</p> <p>(2) 人と関わる体験を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。 ア 挨拶ができる生徒を育てる。</p> <p>イ 生徒会行事、遠足、修学旅行等に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに行事に参加できる生徒を育てる</p> <p>ウ 各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。</p> <p>エ ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。</p> <p>(3) 生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。</p> <p>(4) 中退防止コーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整える。</p>	<p>(1) ア・全教職員がすべての教育活動を通して、また、外部人材等を有効活用しHR及び総合的な学習の時間を計画的に実施することで、「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さ」について考える機会を設ける</p> <p>(2) ア・教職員から生徒に積極的に挨拶するとともに、挨拶をすることの大切さについて生徒に伝える機会を設ける。 ・始業・終業時に挨拶ができるようにする。</p> <p>イ・生徒を中心とした生徒会行事の企画運営を行う。 ・行事に参加する生徒の人数を増やす。</p> <p>ウ・各種行事に対する広報活動の活発化 ・体育祭・文化祭へ地域の方を招待する。</p> <p>エ・ボランティア活動の継続 ・部活動の活性化をする。</p> <p>(3) ・生徒に対し傾聴し、理解し、話し合いによる指導を実践する。 ・各教員が家庭連絡を密にする。 ・HP等で学校の情報を発信する。</p> <p>(4) 中退防止コーディネーターを中心にSCやSSWとともに、困難を抱える生徒への支援体制を整え、生徒個々に対応した指導をおこなう。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断における「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率を3%向上させる (H29, 79%)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断の「自分は挨拶をしている」の肯定率を3%向上させる。(H29, 68%)</p> <p>イ・学校教育自己診断「体育祭、文化祭などの学校行事は楽しい」の肯定率を3%上げる。(H29, 77%) ・行事の生徒参加率を体育祭、文化祭ともに50%以上に保つ。(H29, 体育祭 51%、文化祭 51%)</p> <p>ウ・体育祭、文化祭に来校する保護者、地域住民、中学校教員等の人数を前年度より増やす。(H29, 合計 437名)</p> <p>エ・ボランティア活動の継続 ・部活動加入率 (H29, 32%)を3%増加させる。</p> <p>(3) ・学校教育自己診断における「先生の指導について理解できる」の肯定率を2%上げる (H29, 81%) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率が85%を下回らないようにする。(H29, 86%)</p> <p>(4) 中退率を1.7%下げる。(H29, 12.8%)</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断における「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率4%上がった (○)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断の「自分は挨拶をするようになった」の肯定率17%上がった (○) ・来年度も同じように日々の生活の中であいさつを教員から率先して行い、あいさつの大切さを呼びかけていく。</p> <p>イ・学校教育自己診断「体育祭、文化祭などの学校行事は楽しい」の肯定率が9%下がった (△) ・行事の生徒参加率、体育祭が横ばい (○) 文化祭が2%増えた (○)</p> <p>ウ・体育祭、文化祭の外部来校者人数が、55人増えた (○) ・体育祭・文化祭は大きな盛り上がりを見せている。 2行事合わせた外部来場者数が増えてきている。</p> <p>エ・ボランティア清掃は昨年同様5回実施された。参加者が徐々に増えている (○) ・部活動加入率が10%増加 (○)</p> <p>(3) ・学校教育自己診断における「先生の指導について理解できる」の肯定率が3%下がる (△) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率が9%下がった (△)</p> <p>(4) 中退率は3月末現在で10.5% (○)</p>
--	--	--	---	--

府立寝屋川高等学校 定時制の課程

<p style="text-align: center;">3 夢や志を抱く喜びを伝える</p>	<p>(1) 進路指導の充実を図る。</p> <p>ア 進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。</p> <p>イ 進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。</p> <p>ウ 就業体験をする生徒を増やす。</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路HRや総合的な学習の時間を進路指導計画の中で明確に位置づけ、情報提供を行う。 ・外部機関や卒業生と連携し、生徒が色々な人の生き方に触れる機会を設ける。 ・生徒に提供した情報が保護者にも届くようにする。 <p>イ・担任が生徒と十分話し合うとともに、担任が進路担当者との連絡を密にする。</p> <p>ウ・一人でも多くの生徒が充実した就業体験ができるように指導する。</p>	<p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における「自分の将来について考える機会がある」の肯定率を3%上げる。(H29, 79%) ・学校教育自己診断における「学校は就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる」の肯定率を3%上げる。(H29, 80%) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている」の肯定率を85%にする。(H29, 83%) ・卒業生の進路決定率を60%以上にする。(H27, 53% H28, 62% H29, 73.2 %) <p>ウ・生徒の5月時点の就業率よりも年度末の就業率を5%高くする。</p>	<p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における「自分の将来について考える機会がある」の肯定率が横ばい(△) ・学校教育自己診断における「学校は就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる」の肯定率が1%上がった(○) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている」の肯定率が6%上がった(○) ・卒業生の進路決定率は60% <p>ウ・生徒の1月の就業率は5月時点の就業率よりも10%上がった。(○)</p>
<p style="text-align: center;">4 校内組織の活性化と 人材育成</p>	<p>(1) 校内組織の活性化と職務の効率化の取組み</p> <p>ア 校務検討委員会を中心に学校改革を推進する。</p> <p>イ 時間外勤務を軽減させる</p> <p>(2) 首席を中心に経験年数の少ない教員の育成に取り組む</p>	<p>ア・本校の将来めざすべき方向性、取り組むべき施策、解決すべき課題について具体的な取り組みを話し合い提案する。</p> <p>イ・職務が勤務時間内に終えるよう、効率的に取り組む。</p> <p>(2)・首席が中心となり、経験年数の少ない教員の育成を主眼とした研修を計画し、実施する。</p>	<p>ア・具体的な提案がなされたか。</p> <p>イ・年間を通して時間外勤務を360h以内にする</p> <p>(2)・年間を通して育成のための研修が2回実施できたか(H29, 1回)</p>	<p>ア・具体的な提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行について実施する方向で、場所を今後検討する。(○) ・進級、卒業規定について ・0時間目と総合学習の見直しについて <p>以上2点は来年度に向けて継続協議(△)</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が、年間を通して時間外勤務を3月末時点360h以内にした。 <p>(2)・経験年数の少ない教員の育成を主眼とした研修を2回実施(○)</p>